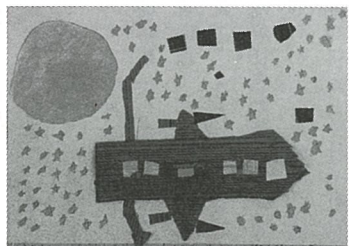




4年
川嶋達也くん



『でこぼこな絵』

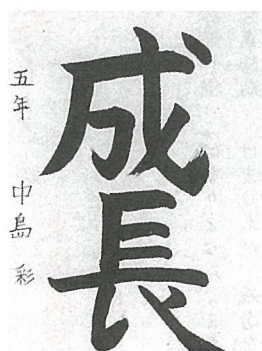
※タンボールを利用して、口ケットをつくりました。夜空をとびまわっています。



1年
浅野翔太くん



※小学校で初めてかいた絵です。友だちをたくさん作りたいな。



5年
中島 彩



5年
中島 彩さん

※わたしは、成長の「成」が、ちよつとむすかしかつたけど、よくできました。



2年
鈴木康成くん

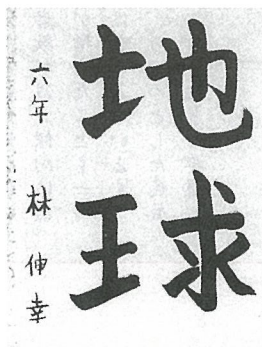


『どうにのつたよ』

※大きなアフリカゾウにのつてみたいなあと思って作りました。

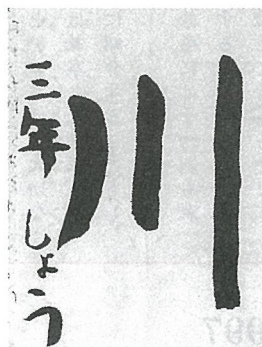


6年
林 伸幸くん



6年
林 伸幸

※地の「也」の部分がかたがたです。球の「求」の部分はうまく書けたと思います。



3年
実川 翔くん

※二本とも入る所がうまく書けました。習字は、すくおもしろいです。

ひかり俳壇



川島 通則 (二又)
父を過ぎ爺となりけり春惜しむ
爺となりけり。中七の惜辞には無常迅速の人生に作者の感懐が深く込められている。

土屋 義昭 (虫生)
ふるさとの史跡巡りて春惜しむ
生涯学習「ふるさとの歴史散歩」に参加しての作品であろう。座五が詩情を深める。

秋山 一泉 (栢田)
老心ふくらみし春惜しみけり
高年者には何かと肩身が狭く感じられる昨今、心の安らぐ春もつかの間に去って行く。

布施 和代 (二又)
春惜しむワイングラスに灯の揺るる
妻病んで蜩の汁をかさねおり

川島 孝夫 (二又)
束の間の花人となる特級酒
布施喜美雄 (二又)

大谷 武彦 (関)
曳かれ行く牛の一声春惜しむ
競い咲く春を惜しまる朝の庭

大木 素風 (二又)
短評
椎名しげる

評者吟
陸目指す御座船襲ふ春怒濤